

分べん復活！軌道にのる市立伊丹病院！

12月議会で
質問！

我々の地域拠点病院である「市立伊丹病院」。市民の方々から随時様々なご意見をいただくところです。そこで今回は、市立伊丹病院についてよく聞かれる事柄をピックアップし、議会で質問しました。

■経営は大丈夫なのか？

よく聞かれるのが「市民病院の経営は大丈夫か？」ということ。結論から申し上げますと今は大丈夫です。

確かにH19年頃、財政状況が悪化した時期がありました（私が議員になった頃でよく覚えています）。累積欠損金（たまった赤字額）が約43億円（H19年度決算）まで膨れ上がりましたが、これは伊丹病院独自の責任ではなく、国の医療制度改革などにより全国の公立病院が一斉に財政難に陥った背景がありました。とはいえ市民の皆さんにはご心配をおかけしたものです。

その後「市立伊丹病院改革プラン」を打ち立て、急性期医療の充実・地域での医療連携などを実施し、**H22年度には黒字化を達成**。現在「市立伊丹病院中期事業計画」を遂行中で、**さらなる病院機能充実と地域完結型医療推進**に取り組んでいます。

■産婦人科はどうなった？

H26年春、医師不足により伊丹病院は“分娩休止（出産を受け付けない）”となりました。

24時間365日体制である分娩において医師不足は安全性の低下につながることから、致し方ない選択だったとはいえ、大変残念な出来事でした（個人的にも、伊丹病院で出産した身として遺憾極まりなかった）。

その後協議を重ね、このたび**分娩再開が決定しました！宝塚市立病院と市立伊丹病院で医師を連携**し、伊丹では産科、宝塚では婦人科を再開することで合意を得たものです。

一安心ですが、課題はこれからどうしていくか。私は阪神北圏域に高度な周産期医療を提供する病院が存在していない現状下、**市立伊丹病院を阪神北医療圏域の周産期医療の拠点病院にしたい**と考えています。それにはまず、分娩再開に全力を傾注せねばなりません。



市立伊丹病院
(伊丹市HPより)

■看護師は足りているの？

全国的に**看護師が不足**しています。7:1基準（入院患者7名に対し看護師1名）が導入されてから不足が顕著であり、H26年度における看護師需要は供給に対して約3万人不足しているとされています。

伊丹病院も例外ではなく看護師不足が大きな課題。勤務体系の改善・広域のリクルート・奨学金制度の充実・・・**様々な確保策を講じて**います。

確保策について、給与（現在は全国水準並）を独自で引き上げることでインセンティブをつけることも一案ですが、病院間の過度な競争に繋がることから公立病院での給与合戦は慎重にならざるを得ません。

“看護師さんは給与もさることながら、働きやすさのプライオリティ（優先順位）が高い”というハナシもあります。この点については病院いわく「夜間託児や病児託児の実施・研修によるキャリア支援を行っており、勤務環境の改善に取り組んでいる。**長く勤められることが当院の看護師へのアピールポイント**」とのこと。いっそう看護師さんの勤務環境向上に取り組み「伊丹病院だから働きたい、働き続けたい」と思ってもらえる病院を目指していきます。

■なぜ初診料がいるの？

伊丹病院は「**まず地域の診療所にかかっただき、紹介状を持って伊丹病院にお越しいただく**」という基本パターンをとっており、**紹介状がなければ初診料2600円を頂戴**しています。なぜ？とのお声もいただくところですが・・・伊丹病院は入院・大きな手術・救急などを実施している病院です。比較的簡易な診療もフルで受け入れると、高度医療がおろそかになるデメリットが生じます。そこで、“まずは地域のかかりつけ医、次に伊丹病院”と**棲み分けし連携することで、地域完結型医療を実現**させようという訳です。このパターンだと、地域診療所・伊丹病院ともにメリットがあります。もちろん伊丹病院で初診をお断りするわけはございませんが、かかりつけ医を持っていたき紹介を経て伊丹病院を受診いただくことに、ご理解とご協力をいただければありがたい限りです。

市立伊丹病院。経営は安定化し、最新機器を揃えるなどハードを整備することで医師が集まり・・・という好循環な状況です。分娩も再開します。軌道にのる市立伊丹病院がますます充実するようしっかり支えてまいります！

H27年度予算要望書、提出！

H26年11月、市議会の会派「フォーラム伊丹」から市長に「H27年度予算要望書」を提出しました。

“来年度の予算はこう組んでほしい”との要望を、安全安心・子育て教育・福祉・環境・財政など多項目にわたり綴ったもので、1項目ごとに回答をもらう予定です。

議会における本格的な予算審査は3月ですが、手前の**予算作成の段階からしっかり**②

関わっていこうという趣旨。今後さらに議論を①

- ①市長と会派メンバー
- ②幹事長（会派代表）として市長に



ブログ毎日更新中！フェイスブックもやっています！
<http://yaplog.jp/sawako-aizaki/>

老人ホーム、まだまだ足りない！

12月議会で
質問！

■老人ホームに入りたくても入れない！

特別養護老人ホームの待機者問題が全国的な課題になっています。入所待機者は全国で約42万人、伊丹市でも93人(H26年6月現在)に！ ホームに入る必要性があり要件も満たしているのに入れない。高齢者の居住施設が絶対数としてまだまだ不足しているのです。そこで今回、高齢者の居住施設について議会で取り上げました。

■伊丹市内の高齢者施設はどんな状況？

まず現状確認から。伊丹市内には現在、どんな高齢者居住施設があるのでしょうか？

- 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)：5ヶ所
- 小規模多機能型居宅介護事業所：5ヶ所
- 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)：10ヶ所
- 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(小規模特別養護老人ホーム)：4ヶ所
- 特定施設入所者生活介護(有料老人ホーム)：7ヶ所
- サービス付き高齢者向け住宅：9ヶ所

※H26年12月現在



■どういう方針で整備するのか？

入所を必要とされているのに入れない方が多数いらっしゃることは、大変申し訳ない限りです。安心して生活できる施設を整備すべきなのは間違いありません。ただ、大規模なモノをドンドン新設すればよいかというと、伊丹市では土地の確保が難しく、また今後社会構造上支えきれなくなることも予測されます。そこで“地域に密着した小規模な施設をきめ細かく整備する”という方向性で伊丹市は取り組んでいるところです。

■具体的な整備状況は？

では具体的な整備状況はどうなっているのか？ 近年では計画※に基づき、グループホーム2ヶ所・小規模特別養護老人ホーム2ヶ所などを新設しました。いずれも地域に密着した小規模な施設です。今後もこのようなタイプの施設をきめ細かに整備していく予定です。

※「伊丹市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」。5期計画はH26年度まで。H27年度から6期がスタート。方針等は継承。

■これからの高齢者施策のカギは“地域”！

これからの高齢者施策について国が掲げているスローガンが「地域包括ケア」です。これは、高齢者が出来る限り住み慣れた地域で生活していけるようなサービス体制を構築していこう、というもの。私もこの方向性に異論はありません。そう考えると、上記で述べた居住施設の整備も重要ですが、その他にも医療・介護・予防・生活支援など様々な支援サービスを地域で進める必要があります。伊丹の特性を十分に活かしたサービスや支援の体制を、自主性をもって作り上げるべく、これからも取り組んでまいります。

稲村さん再選！～尼崎市長選挙～

H26年11月、隣の尼崎市で市長選挙が行われ、稲村和美さんが2期目の当選を果たされました。実は稲村さんとは10年来の友人(自身も子どもも同い年！)。今回も応援に入っていましたので、再選は私も嬉しい限りです。

応援していて感じたのは、尼崎市は新しい息吹が芽生えているということ。

“自治の街・環境の街・子育ての街・・・新しい尼崎を創っていこう”というような雰囲気を感じました。

勝負事ではありませんが「伊丹も負けていられない」と良い刺激をもらいました。

尼崎とも連携協力(防犯や防災などは相乗効果がある)をしながらも、伊丹を「住みたい街、住み続けたい街ナンバー1に！」と決意を新たにしています！



「サワコの茶話会」第9回



気軽な雰囲気で見聞交換する「サワコの茶話会」。“実際に生活する市民の声が一番基本で一番大事”をモットーに、毎回いろいろなご意見を伺い、市政に反映中です。次回(第9回)は下記の通り。お気軽に足を運び、普段感じていることをお話してください！

※H26年12月7日に予定していた「第8回 サワコの茶話会」は、衆院選挙の期間中になったため大変遺憾ながら急遽中止いたしました。公職選挙法により選挙区内で選挙実施中は一切の政治活動が禁じられているためです。ご予約くださっていた皆様方、誠に申し訳ございませんでした。

- 日時：平成27年3月22日(日) 14:00～16:00
 - 場所：いたみホール 5階 会議室1
 - 人数：20名程度
 - 申込：お名前＆連絡先をメールや電話で(連絡先裏面)
- ※飛び込みのご参加もOKです(人数把握のため事前連絡いただけると助かります)
※託児はありませんがお子様連れ大歓迎！

